



おたまじゃくし

〈ほんとに7歳?〉
 (サバの煮付けを食べて) 豊橋市、祖母・鈴木まち子
 孫、これ、どうまい。もう 〈通じるかな〉
 いつ死んでもいいくらいうま (娘が得意げな顔で聞いて) 母、え
 い(と言いながら、ご飯を3 きました) 子、す
 杯食べました) 子、「ごめんさい」って 中川区、

日本語教育必要な外国人の子 5800人超

教員53人増員し指導充実へ

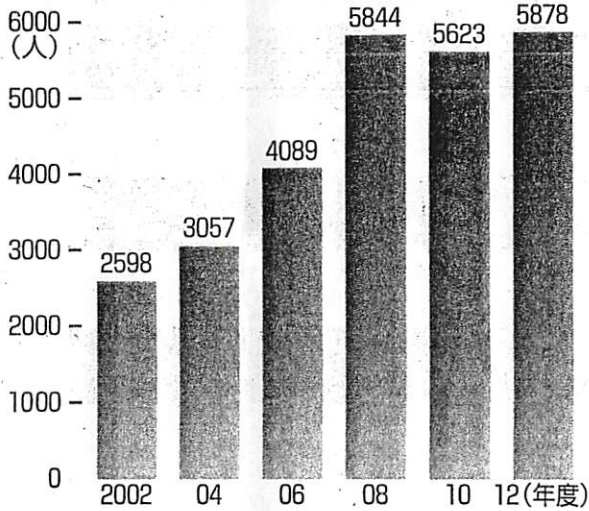
日本語の指導が必要な外国人児童生徒数が全国最多の五千八百七十八人(二〇一二年)の県は一五年度、日本語教育適応学級担当教員を五十三人増やし計四百十五人とし、日本語教育を充実させる。県議会本会議の議案質疑で、**自民の堀崎純一議員**(半田市)の質問に答えた。

(垣見洋樹)



日本語教育適応学級担当教員は、日本語の授業についていくのが難しい外国人の児童生徒を週に二―三時間、正規の授業時間中に別の教室に集め、分かりやすい授業を行う。日本語の授業を外国語に通訳して児童生徒の理解を助ける語学相

県内で日本語指導が必要な児童生徒数



談員も増やす。一五年一人に、タガログ語の相度はスペイン語の相談 談員を新たに二人確保を現在の二人から五保。要望のあった学校

に派遣する。

日本の高校への進学を希望する外国人生徒が増えていることから、現在は小牧、衣台(豊田市)、名古屋南、豊橋西の四高校の入試で実施している外国人生徒選抜実施校を増やす方向で検討する。

一方、民間を含めた日本語教育活動への支援としては、不登学や不登校の外国人児童生徒の学習支援を行うNPOに対し、国や市町村

村とともに費用の一部を補助する。

また、学校と行政、経済団体、NPOなどが連携する「あいち外国人の日本語教育推進会議」を設置し、外国人の日本語教育の現状を把握したり課題を解決する方法を話し合ったりする。

このほか、ボランティアが運営する日本語教室の指導者を増やすため、企業や教員OBなどを対象にした養成講座を開いたり、外国人児童生徒による日本語スピーチコンテストを開いたりする。

県によると、県内の外国人児童生徒の母語で多いのは、一二年度はポルトガル語が三千八百八十八人、タガログ語が千四十一人、スペイン語が七百六十七人。名古屋市、豊田市、知立市では在籍児童の半数以上が外国人の小学校もある。

平成二六年度は、文教委員会の副委員長として、半田

特別支援学校の大府市内への分校案の決定など、努力し

てまいりました。

引き続き、提案事項の具現化など、施策充実に取り組んでまいります。

ほりさき純一